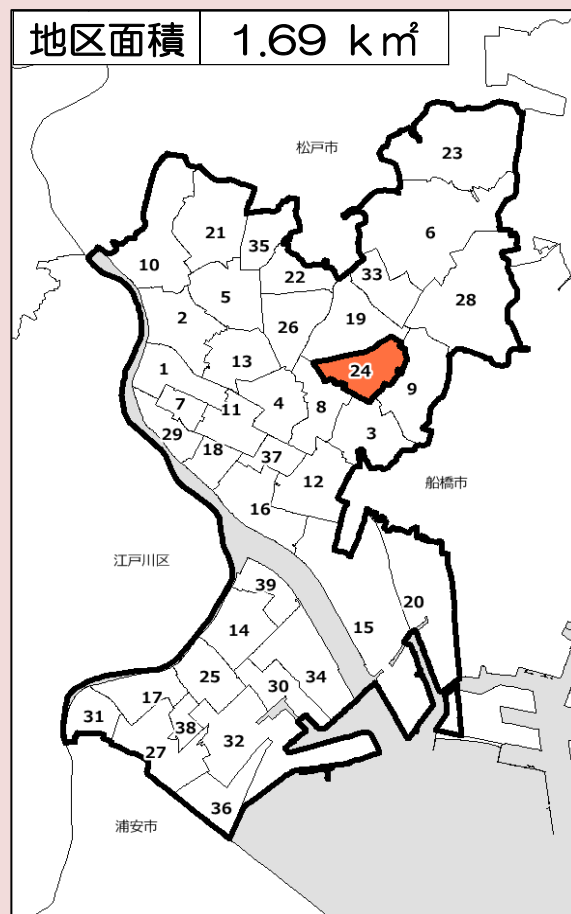


24 北方小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

北方小学校は市の中央よりやや東部に位置し、地区の北側は派川大柏川、西側は真間川に面しています。また、地区内に大柏川が横断しています。

◆地形・土地利用

地形は、主に氾濫平野で構成されています。地区の西側は第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が建ち並んでいます。

◆都市基盤

地区内の南側の一部は、土地区画整理事業により整備されています。また、南北にかけて都市計画道路3・4・18号が通っています。地区内には派川大柏川の排水機場、大柏川第一調節池緑地が立地しています。

地区内には、JR本八幡駅行きの京成バスや、市川市コミュニティバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

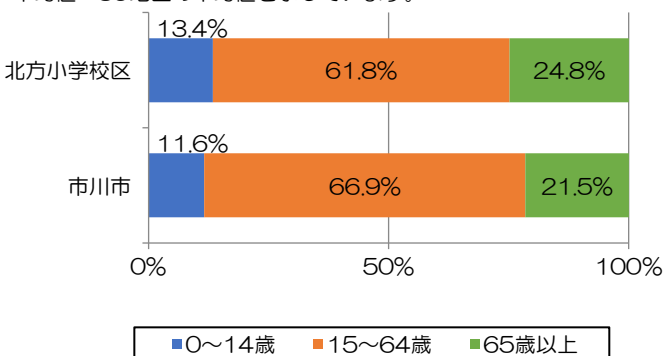
年齢別割合

	北方小学校区	市川市	割合※
人口総数	7,381人	492,564人	1.5%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	12,630人
-----	---------

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。市全体と比較すると0～14歳及び65歳以上の割合がやや高く、現役世代がやや少ない地区となっています。

◆建物

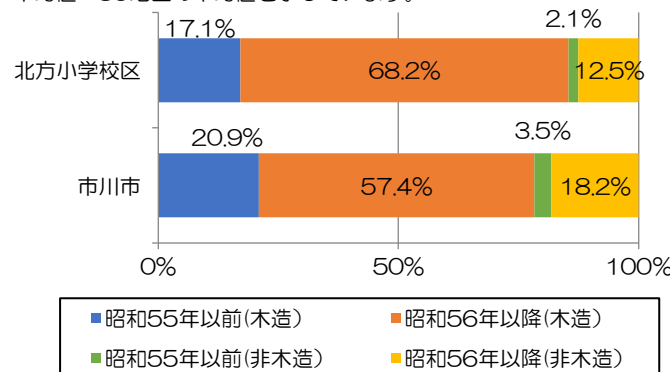
構造別割合

	北方小学校区	市川市	割合※
建物総数	2,333 棟	107,267 棟	2.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	2,750棟
-----	--------

平均値：39地区の平均値を示しています。



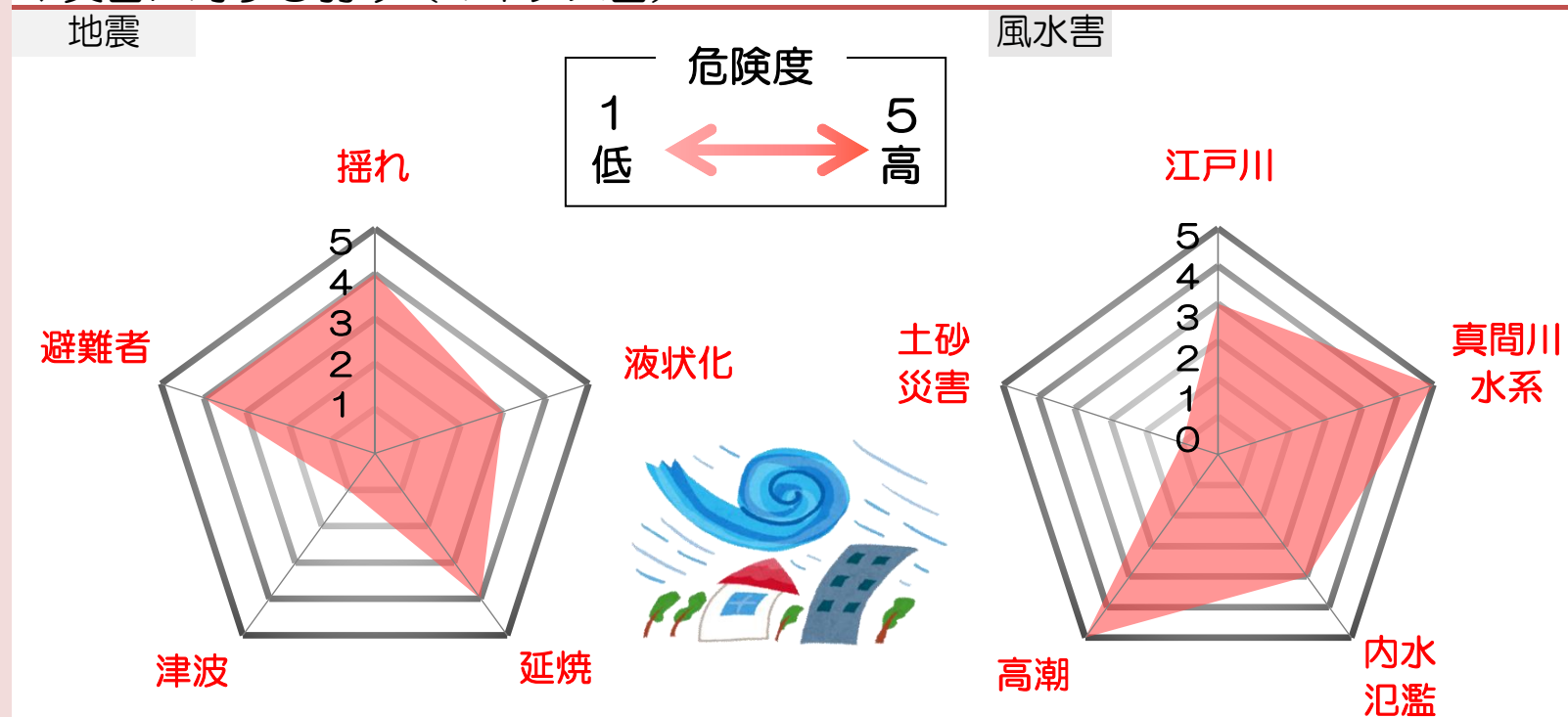
地区の建物は平均よりやや少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、木造建物が多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

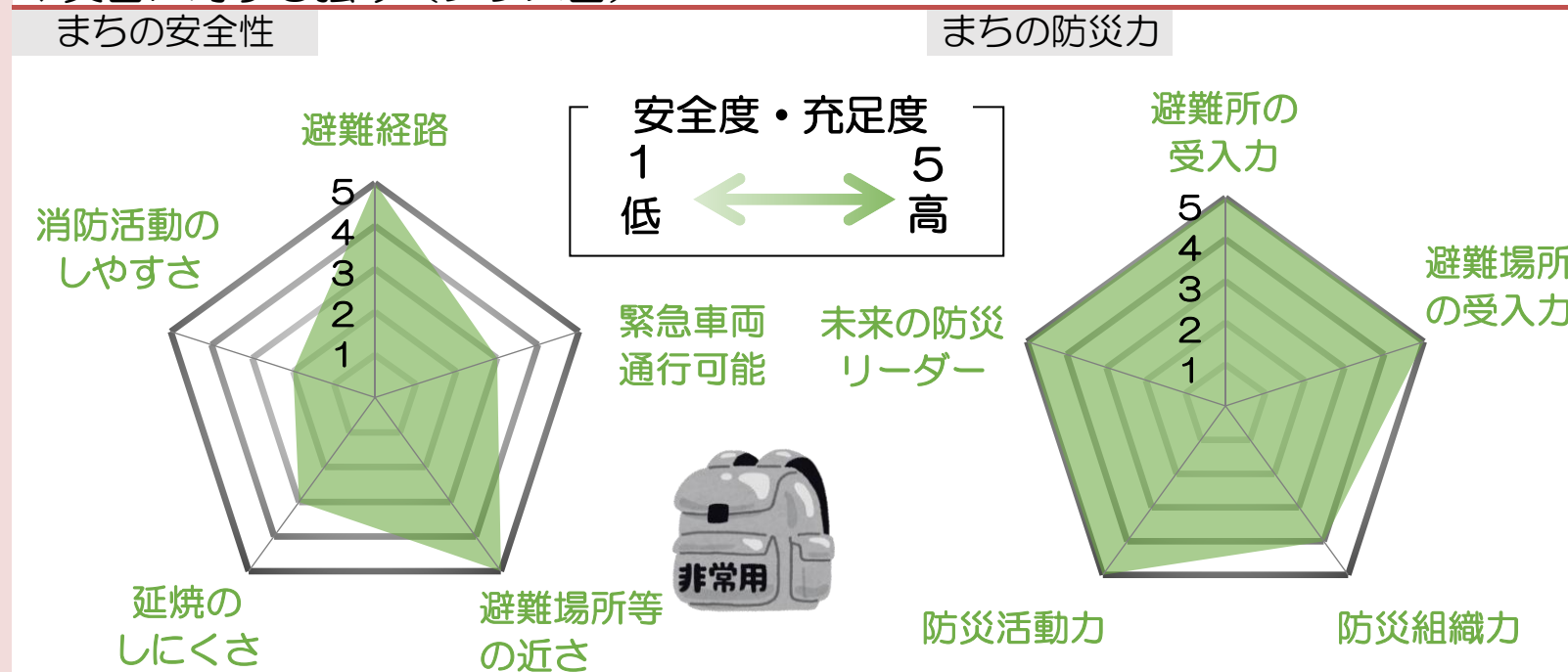
市川市防災カルテ < 北方小学校区 >

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

北方小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、揺れ、延焼による危険性が高く、避難者が多く発生する傾向にあります。風水害については、真間川や派川大柏川に面し、地区内に大柏川が流れていることから、真間川水系の氾濫による浸水の危険性が高く、高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難経路、避難場所等の近さは高い傾向にあるものの、消防活動のしやすさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、総じて高い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
北方小学校	-		
市川学園	-		
市川学園（第1グラウンド等）	-		
大柏川ビジターセンター	-		

◆避難場所

名称
北方小学校
市川学園
市川学園（第1グラウンド等）

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設 (公設)	本北方保育園		医療救護所	なし
			関連施設	なし



(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	北方小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	4.6%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	11.9%	11.8%
	焼失棟数の割合	9.9%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	0.5%	0.4%
	避難者の割合	22.1%	20.0%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	北方小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	60.6%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	99.3%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	82.5%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	96.6%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合が高い一方で、木造建物の割合も高いことにより、建物被害は概ね市全体に近い傾向となりました。また、人的被害については、負傷者と避難者は市全体よりやや多くなっています。

一方で、風水害については、真間川や大柏川に面し、地区内に大柏川が流れていることから、真間川水系の氾濫による影響が大きく、江戸川の氾濫、内水氾濫、高潮の浸水による影響も受け、市全体と比較して浸水棟数は多くなっています。

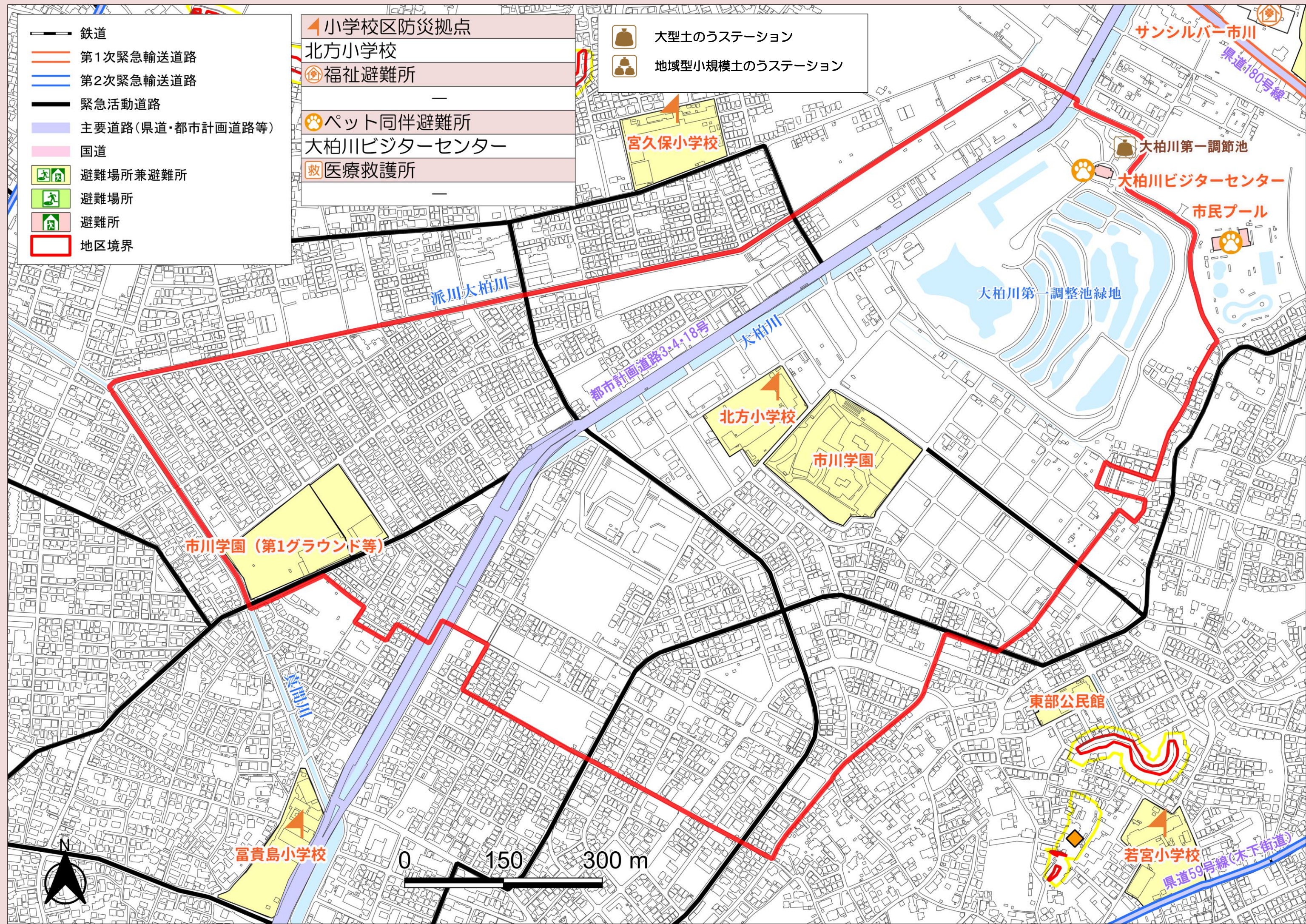
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測されており、揺れや延焼による危険性が高いことから、耐震対策や延焼対策や初期消火対策等が重要です。
風水害	西側に真間川、北側に派川大柏川が面し、地区内に大柏川が流れていることから、河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区には、消防水利の充足が低く、消火までに時間を要することが考えられるため、初期消火の対策等が重要です。
地域の防災力	地区では、地域の防災力が高い傾向を示していることから、防災活動や組織力の強みを活かして、さらに防災活動に取り組んでいくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

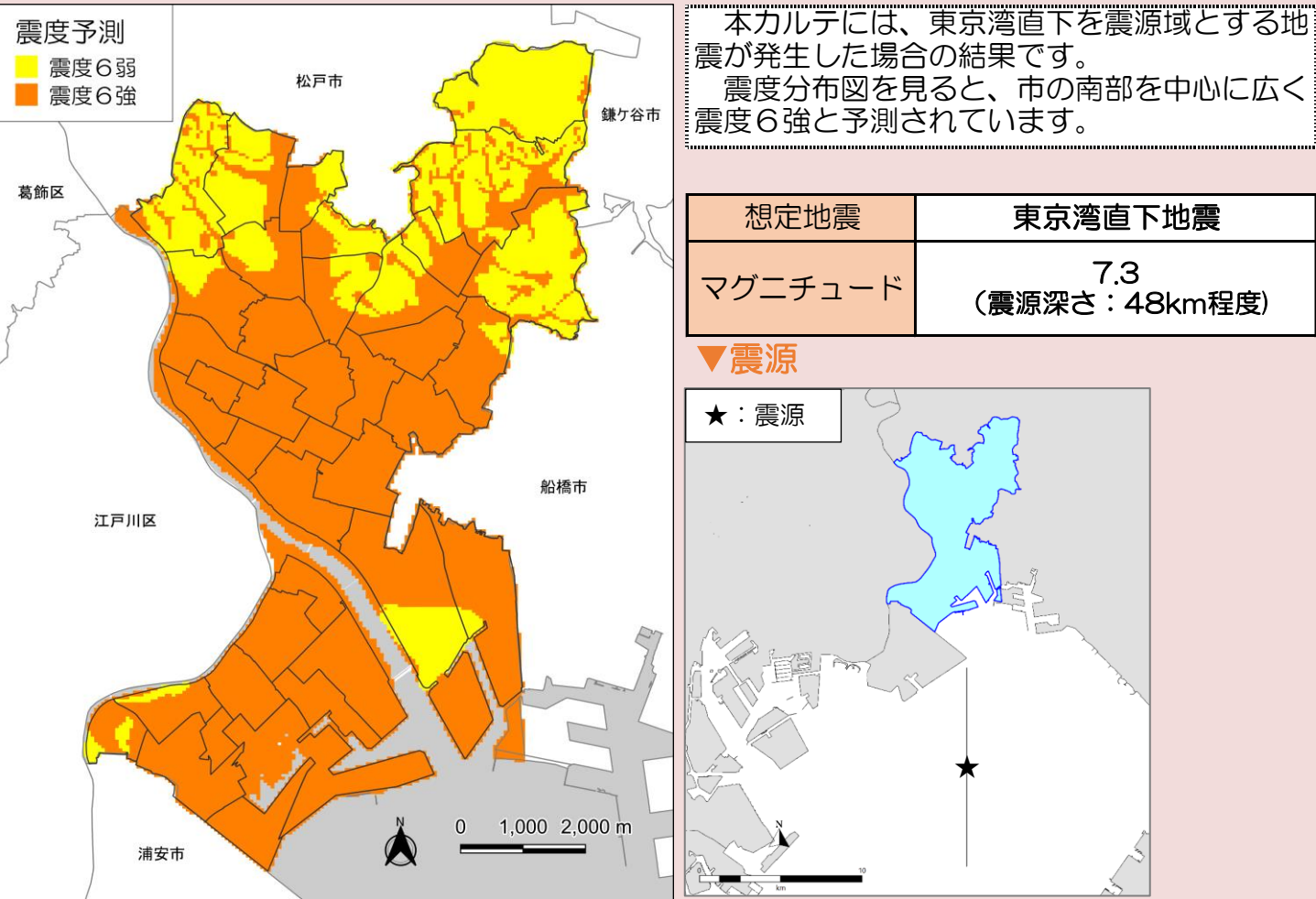
項目	取組の方向性
地域の取組	災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 真間川水系氾濫による浸水が想定されることから、洪水時の避難場所等を確認し、あらかじめ地区の中で情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置を進めるとともに、家具の固定など自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが必要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。 一方、風水害に対する備えとしては、同じく「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

(9) 防災マップ



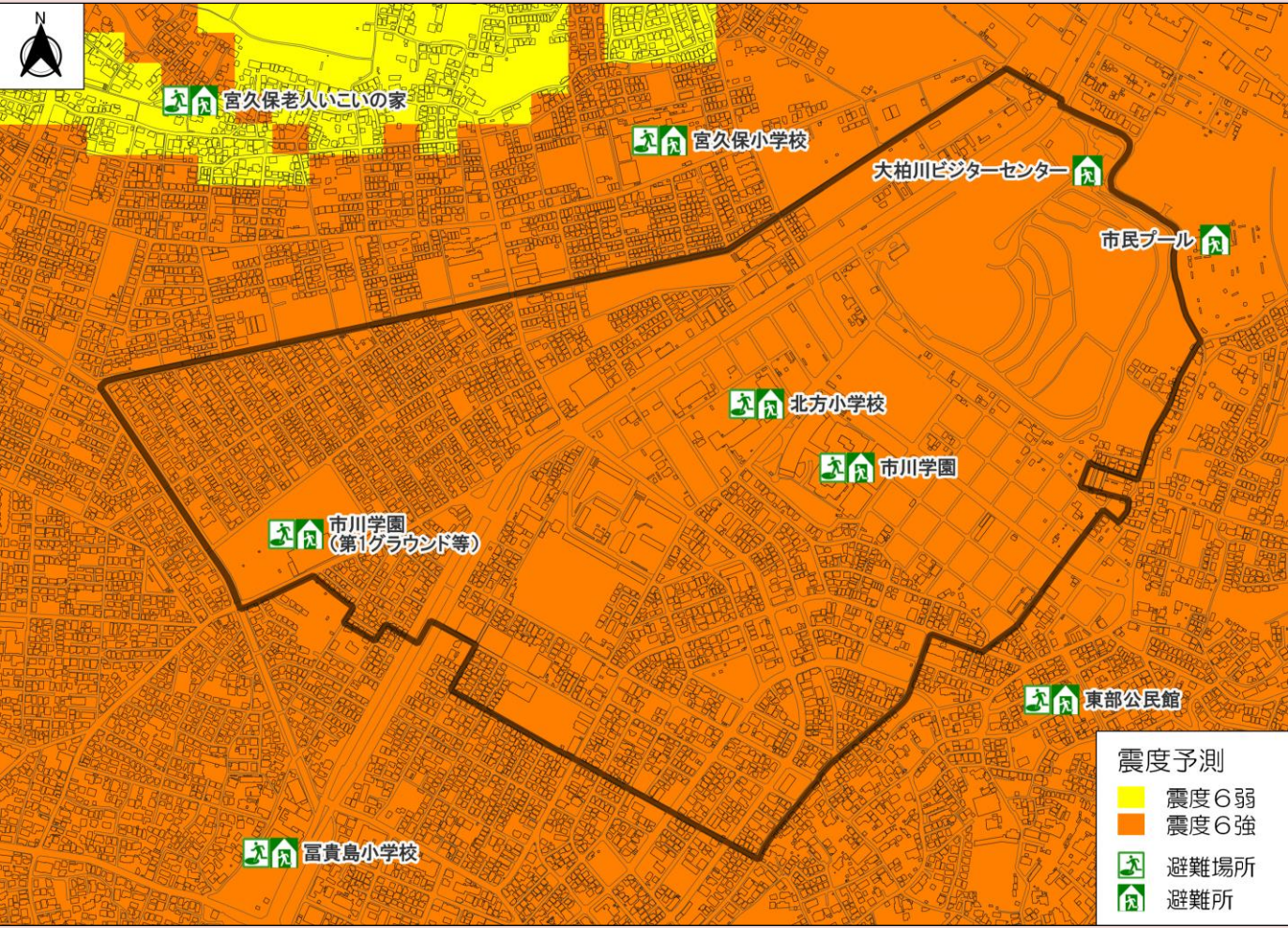
(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図

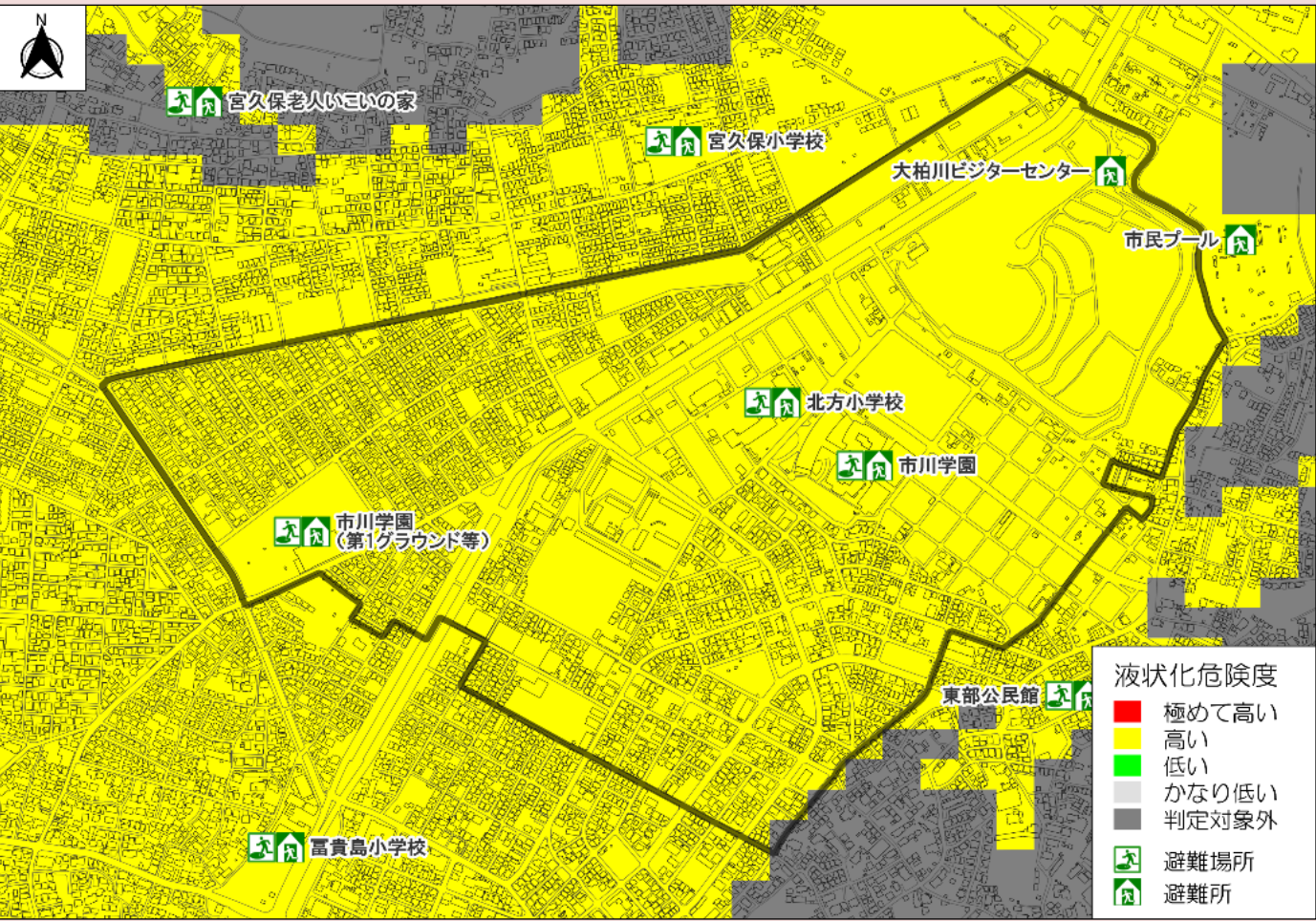


※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。

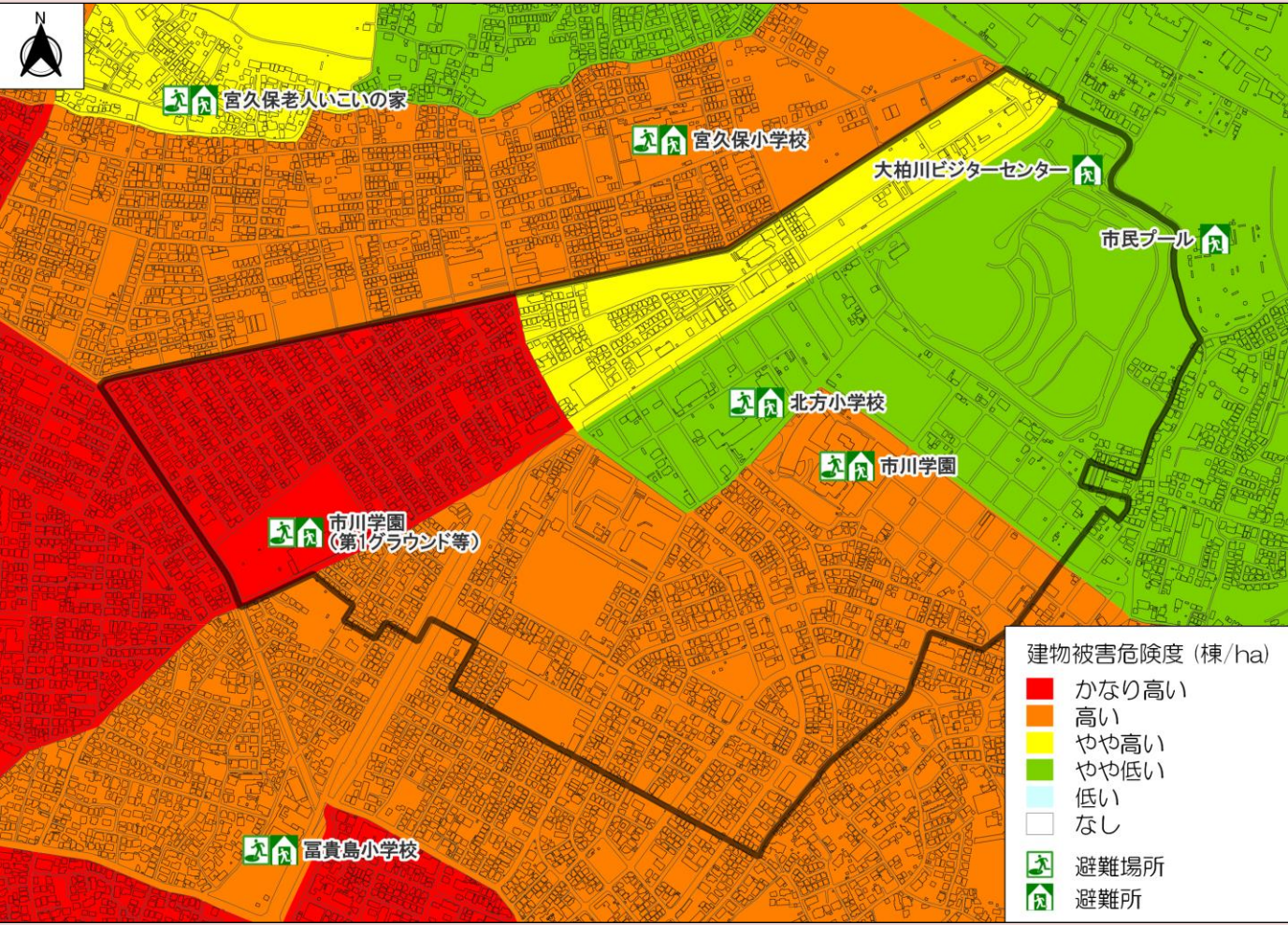
②震度分布図



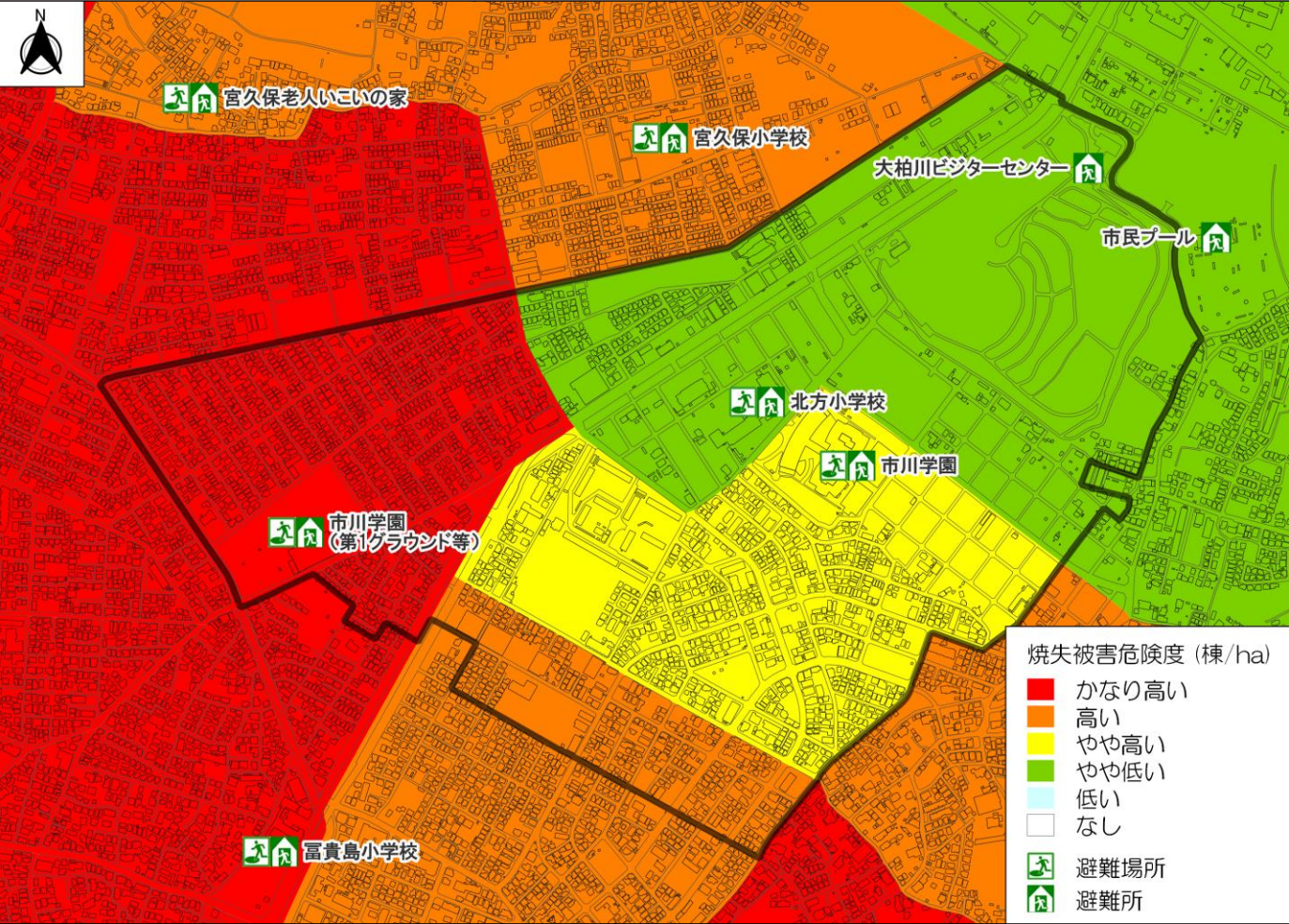
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

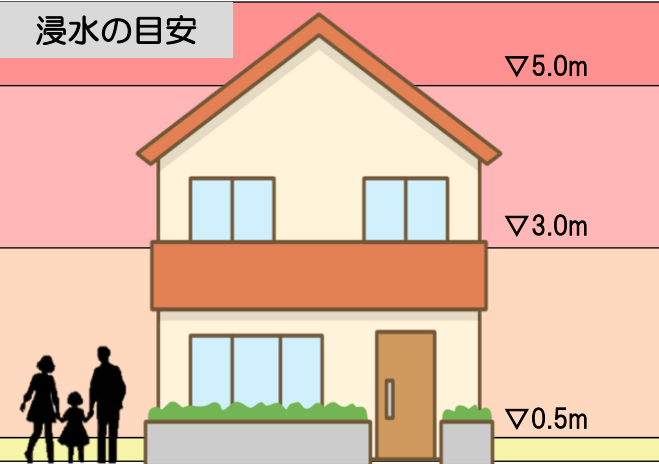
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

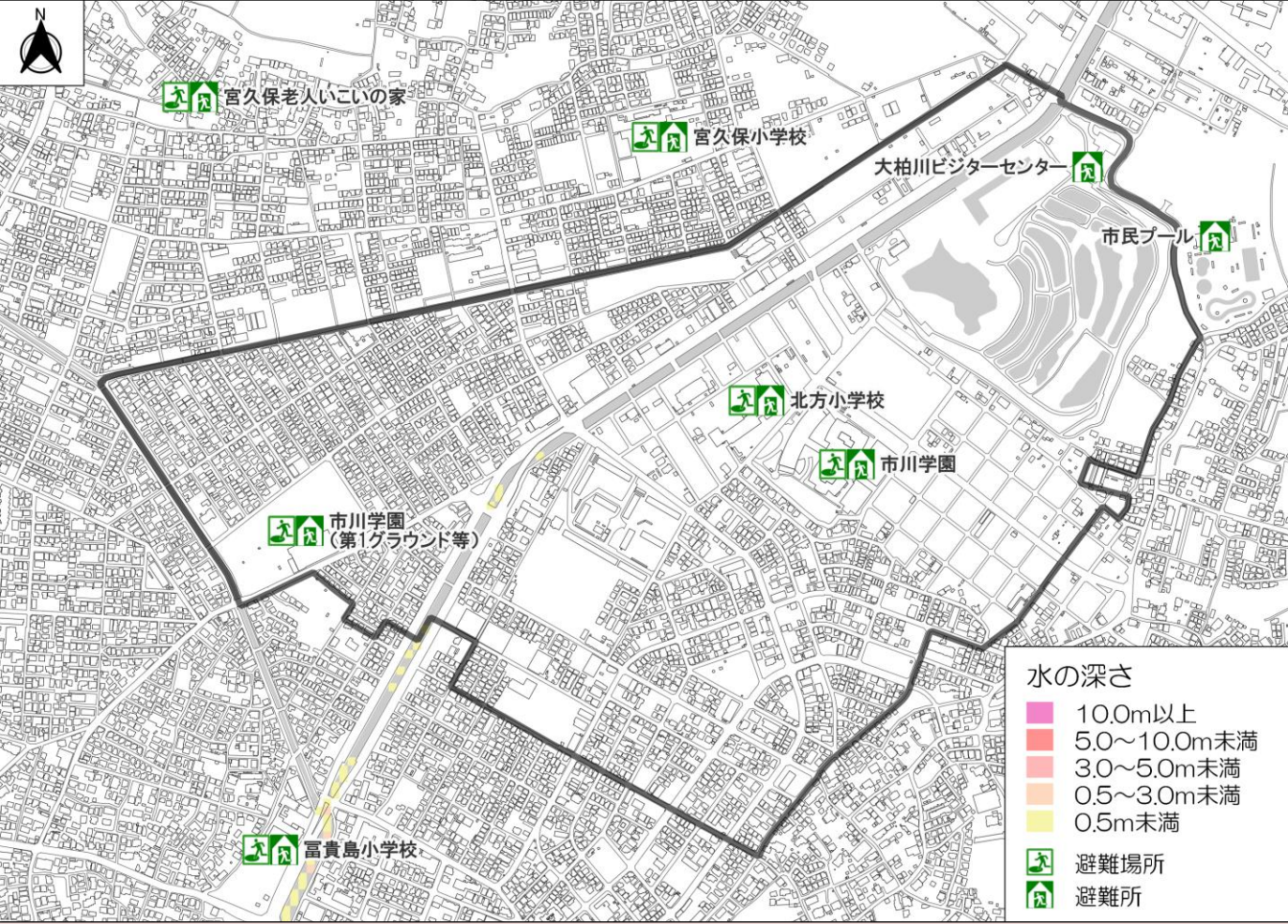
水の深さ

水の深さが5.0m以上
水の深さが3.0～5.0m未満
水の深さが0.5～3.0m未満
水の深さが0.5m未満



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

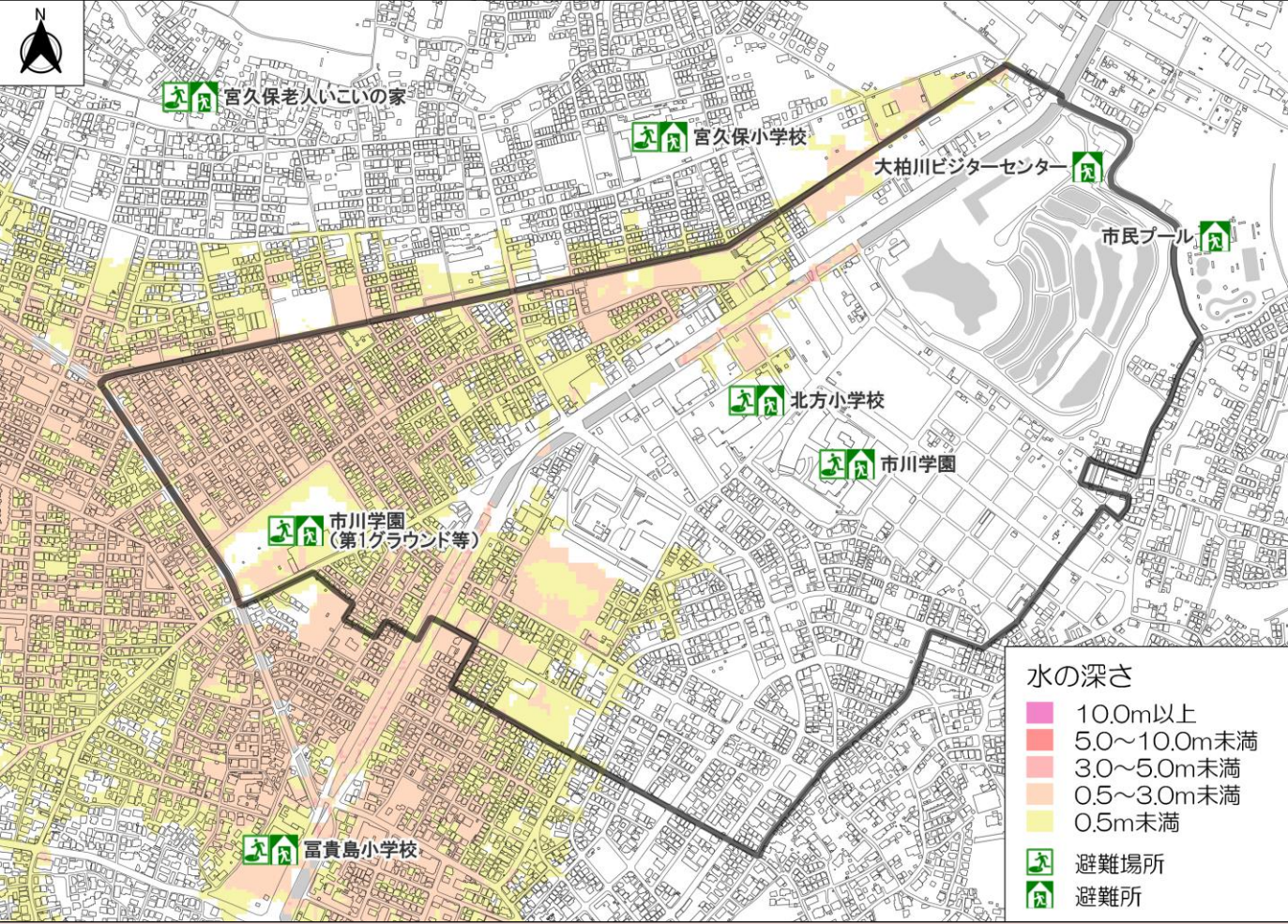
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

